

(様式第4号)

## 上田市図書館協議会 会議概要

1 審議会名	上田市図書館協議会
2 日時	令和5年3月29日(水) 午後6時30分から午後8時05分まで
3 会場	上田駅前ビルパレオ 2階 会議室
4 出席者	佐々木会長、松井副会長、池田委員、中村委員、大井委員、小林委員
5 市側出席者	浅野上田図書館長、金田上田情報ライブラリー館長、高橋上田図書館係長、赤地上田図書館係長、和田上田情報ライブラリー次長、藤森丸子図書館次長、岩下真田図書館次長
6 公開・非公開	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 ・ <input type="checkbox"/> 一部公開 ・ <input type="checkbox"/> 非公開
7 傍聴者	0人 記者 0人
8 会議概要作成年月日	令和5年4月9日

協 議 事 項 等

1 開 会
2 会長あいさつ(佐々木会長) コロナも一段落し、年2回の会議を平常に実施できるようになった。早いもので2年が経ち、今日は総まとめの日となる。
3 協議事項
(1) 令和4年度重点目標の取り組み状況について
・資料に沿い事務局から概要を説明
① 県と市町村が協働して進める電子図書館への参加と運用方針の決定
② 図書館利用が減少する中学生・高校生を対象としたサービスの充実
③ 職員の資質向上
・以降、協議
(委員) 電子図書館の登録者人数が書いてあるが、年齢的にはどうか。
(事務局) 詳細なデータは持ってきてないが10代から70代以上の方まで幅広く登録している。紙の図書館の方は、どちらかというと65歳以上の年配の方の利用が多い傾向にあるが、電子図書館の方は30代・40代・50代の年代層の方の利用が多くなっている。利用者の年代層がまた違うというふうになっている。
(委員) 令和5年度以降の財源だが、最初は宝くじの助成金があったが、それがずっと続くのか。
(事務局) 市町村はまずコンテンツ費用、本代を負担することになっている。令和4年度は宝くじ助成金がもらえたので市町村負担金は無くてよかったが、5年度以降は、負担金が発生するようになる。上田市の負担金は、55万3,616円で、これはどういう計算で出てきたかということ、市町村が負担する本代は全体で800万円になるが、それを均等割10%、人口割90%という計算式で当てはめるとその金額になる。令和5年度の本代は800万円だけではなく、宝くじ助成金が令和5年度も1,800万円いただけることになったので、コンテンツ費用は合計2,600万円の本を買っていく予定になっている。
(委員) 上田市で高齢者の登録が伸びていないということか。30代から50代の方々は多いがこれはコロナの影響なのか。その他に何か理由があるのか。
(事務局) 明確な理由は不明だが、なかなか図書館に来られないような仕事をしている世代は、どちらかというと図書館に来なくても済む、電子図書館を利用することは一般的に考えられる。やはり紙の本がずっと親しんでいいよという方は若い方よりは年配の方の方が多いだろうし、そういったことからそういう傾向になっていると思う。
(委員) 一般的な傾向としては高齢者の方は外へ出ないというか、出ると危険だと自己防衛をする傾向がある。全体的な数値はそんなに大きくない。
(委員) 私達の年代は、スマホを使って読むというのはなく、皆さんにも電子図書館が出来たという話はあるけど、そういうものを使おうという気持ちは全然なかった。でも若い人たちはスマホもいろいろできるし、なおかつ高齢者が車の免許返納や公共交通も少なくな

ってきた中で、これからは電子図書が増えていくと思う。高齢者もこれから電子図書が必要になると思う。

(事務局) これからは電子図書というのも蔵書も増えていくし利用される方が広がっていくと思う。令和5年度の取り組みのところで話をしようとしているが、ただ周知PRといっても、なかなか取っ付きにくいところもあるので、ちょっと工夫をした取り組みをして利用者をもっと増やしていきたい。

(委員) 先ほど30代40代50代が多いと言われたが、この方たちは今まで図書館に来ていた方か、それとも今まで利用しなかった人が電子図書になったので、利用するようになったのか。

(事務局) しっかりとした統計はとれてないが、電子図書館を利用するためにはエコールのカードを持ってなければいけないし、エコールのカード番号も電子図書館のIDに使っているので、どちらかというとも既にエコールの登録をしている人の方が圧倒的に多いと思う。全体の何%かというところまでは分かっていないが、初めて電子図書館を使いたいから、エコールのカードを作られるという方も中にはいらっしゃる。全体的なパーセンテージからすると少ないが、そういう方もいらっしゃる。

(委員) 今まで図書館に来ていなかった方が電子図書館を利用するようになったのか、それとも図書館を利用していたが、電子図書館に移行したのか。図書館で借りなくても電子図書に変えてしまったのか。電子図書館に興味を持ったから今まで利用しなかった人が電子図書なら利用しようということになったのか。

(事務局) まず、これまで紙の本を利用していた方がすぐに紙の本はやめて、ネット社会に移行したということではないと思う。紙の本も読まれるけども電子図書館も利用したいということだと思う。そういう方がほとんどを占めると思うが、広報の記事を見たりして、これはいいと思って、来られた方もいた。

(委員) コンテンツが沢山あるわけではない。私も利用しようと思ったが、読みたい本がない。図書館にある本が全て読めるともって利用が増えると思う。登録者が871人というとても少ないなと思った。それが県で2番目で、鳴り物入りで開始した割にそんなものなんだとちょっと残念でした。せつかく予算がついて宝くじで助成してくれて、重点目標にもなっているので、もっと宣伝していただきたい。

(委員) 使い方講座みたいにやると書いてあるので、どんどんやっていただいて、こんな仕掛けじゃ駄目だという意見が出てくればもっと使ってもらえると思う。

(事務局) 人口比にすると0.2%か0.3%ぐらいになる。やはりコンテンツを増やしていかないといけないと思う。上田図書館は昔、始まった当初は400冊ぐらいしか本がなかったというが、今は30何万冊ある。電子図書館もそうやって段々増やしていく必要がある。登録や利用をしていただくための工夫もいろいろしなくてはいけない。

## (2) 令和5年度の重点目標について

・資料に沿い、事務局から概要を説明

- ① 電子図書館（デジとしよ信州）の利用促進
- ② 図書館利用が減少する中学生・高校生を対象としたサービスの充実
- ③ 職員の資質向上

・以降、協議

(委員) 電子図書館の体験コーナーは是非お願いしたい。こういうものとはほど遠い生活をしているので図書館に行って体験できればいい。学校もタブレットで授業をするようになって、割と興味を持っていただき、小さな子供も覚えていけば、本を読む機会も増えると思う。

(事務局) 学校でタブレット1人1台になってるが、これも令和5年度中にちょっと進んでいくと思うが、デジとしよ信州を学校でも読めないかということ運営会議で今模索をしている。デジとしよ信州を利用するためにはIDが必要だが、そのIDを児童・生徒一人一人に付与しなくてはいけない。その付与をどういうふうにしようとか検討している。デジ

としょ信州は1人が借りると、他の人が読めなくなってしまう。それを何人でも読めるようなサービスがあって、講談社の児童読み放題みたいなのがあって、そういうものを令和5年度は買って、学校でも朝の読書のときとか、あるいはもしできるのであれば授業に持って、デジとしょを、学校のタブレットを使ってということが出来ないか今検討しているところである。

(委員) 学校でデジとしょ信州を見ることが出来たらいいと思う。何かうまく紐づけして全員がぱっと見られたらいい。一人一人にIDを付与しなくても見れるようになるか。

(事務局) 例えば学校の担任の先生がデジとしょを借りて、それをプロジェクターでスクリーンに映せば、みんな見える。ただ、日本のコンテンツは著作権の関係でそれはNGとなる。一人一人がIDを持ってアクセスをしないと駄目らしい。

(委員) 体験コーナーもそうだが、できるだけ若い人たちに興味を持ってもらえるようにしてもらいたい。私もパソコン教室をやっているが、70代以上の人はスマホの小さい画面だと読みにくい。パソコンだといいが、パソコンもやってない70代以上の方もいる。60代以下の方が結構スマホでも使いこなしている。できるだけ若い人たちが興味を持つような方向にしてほしい。

(委員) 私は、デジとしょ信州のコンテンツは子供向けが結構あるなどと思った。マンガも多いし、子供や若い人たちが結構読むんじゃないかと感想を持った。

(委員) 急速にデジタル社会が押し寄せて来ている。来年度から小学校の教科書がQRコードから始まって、あらゆるものがそういうふうになってきている。現場の学校の先生が、若い先生は切り替えが出来るが、ちょっと年配の先生だと大変な現状だ。高齢者はもう使わなくてもいいと言ってくればいいが、それが押し寄せてくるから使えないし、それを細かに教えてくれる人もいない。だから、このデジタル社会からドロップアウトしている。年配の方は、参加もしないし、できないから肩身が狭くて追いやられているという現状だ。マイナンバーカードも市役所に行ってみるとものすごい人がある。どこかの課や図書館がその一端を担っても私はいいと思うが、非常に初歩的な見方だとか、QRコードはこうすると分かるとか丁寧にやる講座があってもいいと思う。どんなことでも質問してください、恥ずかしいことはないですよということで呼びかけていく、そういう講座が一つもない。もう知っているのが当たり前になっている。だから本当に現場では高齢者の方は困っている。誰に聞いたらいいかわからないし、同じの年代の人に聞いてもわからないし、もうどうしようもないという現状だ。だから電子図書もいいが、そこまでいかない段階の人がものすごくいる。これは市役所のどこかの課、あるいは図書館もその一部だと思うが、私は考えていくことだと思う。教育現場でも高校の方では、地域の教科書とか歴史の教科書が地理総合とか歴史総合という電子化したものの一部を扱うようなことを学校でやるようになったが、現場の方ではなかなか難しく、やったとしても数時間で終わらせて違うことをやるという状態が結構ある。深入りするとわからなくなってしまう。現実はそのサービスをする期間はものすごく高度なものをバンバン発信する。だからできる先生はもういろんなことを取り入れてやっている。そういうことが得意な先生はいろんな事をすぐできるわけだ。ところがそうじゃない中高年の先生はそこまでいかないので現実には非常に難しい。その後もちょっと現状を考えようというと思う。

(事務局) 上田市でもスマートシティということで、いろいろな部分をデジタル化して例えば税金を納めていただくのもキャッシュレスでとか、いろんなところでそういった動きがあって、そういったものを進めている。一方でやはりデジとしょもそうだが、それを使うにはどうしたらいいのかというのは、そのときに例えば利用登録の仕方がわからないということであればそのときに教えて差し上げるとか、何かそういったことは必要だと感じている。

(委員) 重点目標は、これだけしかやらないのか。これらは図書館の中でやることではない。本来は、図書館の中でやる利用者に対するサービスの目標を掲げるのではないか。

(事務局) これだけしかやらないということではもちろんなくて5月にまたこの会議があるとき

に、令和 5 年度の取り組みであるとか、令和 4 年度はどんな取り組みをしたかという報告をさせていただく。そういう中で、例えば児童サービスとかいろんなサービスを取り組んでいくということであり、その中で特にこういった項目を重点的にやっていく。これはその先の子供読書活動推進計画もそうだし、第二次上田市基本構想もそうだしそういった中に今位置づけられているものの中から今の取り組むべきものをピックアップしてやってきているということである。だからこれだけしかやらないということではもちろんない。

(委員) 重点目標とか関係ないが、サービスの中で移動図書館やまびこ号の活用については、現状なのか利用者が下がっている状態なのか。

(事務局) 貸し出し件数を見ると増えもせず減りもせずというところで推移をしている。これは丸子もそういう状況だ。根強く利用する人がいると感じている。楽しみにしている方もいるので、引き続き良いサービスを提供していきたい。

(委員) 私は歳を取ってもずっと本を読んでいきたいと思っていて、歩いて行かれる場所、自分が車とか使わなくても、そこに毎週同じ時間に来るようなサービスがあればいいなと思った。ただ、利用者が減ったり、こういうデジタル社会になってきたらどうなのか。歳を取るとやっぱり紙の本、大活字本といったものがよくなる。いつまでもこのサービスが続けばいいと思う。

(委員) 職員の資質向上ということだが、大変気持ちよく本を借りられる。いつもあいさつしてくださっている。時代に逆行することだが、先ほど高齢者の方が紙の本を好まれると言われたが、本は内容を読むだけじゃなくて、紙質とか厚さとか装丁とか、そういうのをひくくめて読書の楽しみというのがある。私もいつまでも図書館に来たいと思うが、そのうちに車も運転できなくなって、そしたらどうするのかなってちょっと考えてしまう。前に新聞に載っていたのは、横浜で高齢者の方が本の宅配をしてもらい、それを楽しみにしているという記事があった。私の叔母も免許証を返納したので、図書館に行けなくてつまらないと言っていたことがある。本の宅配というのは考えられることなのか。移動図書館車があるが、場所が限られているのでそこからまた離れてる方は行けない。歳を取ると歩いてもいけないし、電子図書に馴染めばいいのかもしれないが、それもなかなか難しいところもあるし、本の宅配というのはいかがなものか。

(事務局) そういったサービスについて私もあまり詳しくないので、例えば返す場所も何ヶ所か街中であって返せるだとか、そういうサービスをしているというようなことも聞いたことがあるが、具体的にそういったサービスについてどういうものかということを申し上げるだけの知識がないので、それについてはまた研究してかなくてはいけないと思う。

(委員) その宅配してもらう料金は本人負担でいいと思うが、そんなサービスありがたい。

(事務局) コロナ禍の時に県立だったか小諸図書館だったかが宅配サービスをやっていたと思うが、続いているかどうか私も承知していない。送料は利用者さんの負担でそういったサービスは確かにあった。

(委員) 上田の本館と真田と丸子に図書館があるが、塩田とか川西には地区割でやってみるとないので、今後考えていかないと今のような問題が出たときに、できるだけ近くで利用できるように市としては図書館に準ずる図書室でもいいが、一つの部屋を作って、そこで見られるようにする。そういうことも考えていかないと今の体制だけでやっていると、どうしても無理だ。利用できない人が結構いる。今後の課題として私は必要だと思う。

(事務局) 図書館を造る、分室を造るというのはお金がかかって難しいが、今、塩田公民館では、サービスポイントというような形でそこで本が借りられたり返せたりするエコールのネットワークの中で物流がある。昔には川西もサービスポイントにしていたということも聞いたこともあるが、例えば川西公民館でそういうポイントがあれば、わざわざこちらまで出てこなくても、川西の方もそこで借りられるといったことは、全く非現実的なことではないと思う。もしそういったことをやるとすれば、そういった方策も一つ有効だと考える。



(委員) 研修会の関係で、参加者の人数が書いてあるが、正規職員、臨時職員関係なく出ているのか。館内はそうだが、館外の研修も平等に受けることができているのか。

(事務局) 初任者研修は初めて図書館でお勤めになるとか上田図書館に採用された方とか1年目であれば臨時の方でも一緒に受けている。あと、担当している業務で例えば調査をするだとか、そういったような研修があれば、臨時の方でも担当しているのであれば、そういった研修に参加している。

### (3) その他

(事務局) 通知の中で上田図書館の建設に向けたご意見をいただきたいと申し上げてあるが、図書館の施設の計画というのは上田図書館の個別施設計画というのがあり、その中では令和12年を目途に改築を進め、令和6年度から改築の検討に着手するとなっている。来年度は令和5年度になるが、それに向けた準備も進めていかなければいけないと考えている。図書館の建設に当たってはまず建設の場所、規模、他の施設との複合化、財源、提供するサービスなど、様々な課題と検討事項がある。そういったことを今後、検討していくが、本日はそういったことを体系立てて意見をいただくというところまではいかないと思うが、委員の皆さんに上田図書館建設に向けた意見あるいは想いを聞かせいただきたい。

(委員) 建設する場所は決まっているのか。

(事務局) 今のところ白紙である。

(委員) 複合施設になると思っているが。

(事務局) 今、市外の図書館も複合施設が多いわけだが、財源的な問題があり、複合施設にするとう利な起債を使えるとか、そういったようなこともあって複合化する施設が多い。上田市の中にも公民館と保育園が合築して作った施設もあり、複合化も大きな選択肢の一つである。

(委員) 千曲川左岸地域に是非建てて欲しいと思う。

(委員) 建物を建てるのに莫大な費用がかかるし、立地条件とか場所は、市の専門家にお任せして、個人的にはせっかく新しい建物ができるから中身を少しでも良くする、良い図書館になるようにしたいと思う。箱物のことはよく分からないが、職員にたくさん勉強していただき、皆さんに満足してもらえるようなサービスができたり、今の時代、地域と密着したできるだけ周りを取り込んで、ボランティアを活用して、一緒に協力して利用者を楽しんでもらえるような、みんなが集まってこられるような図書館になったらいいと思う。

(事務局) 図書館を建てる時は、市役所を建てたときもそうだと思うが、基本構想のような建設の構想をまずは作っていくと思う。それは市民の皆さんからも意見をいただいたり、協議会の皆さんからも意見をいただいたり、その中に例えばどんなサービスを提供していくか、それにはどんな部屋が必要かとか、段々固めていくということだと思う。

(委員) 他の図書館の見学ツアーに行くと広くていいなと思った。上田はちょっと狭いし、またゆったりできる場所がない。自分は高齢者だが、一人暮らしの高齢者が多いので、ちょっと寄って見ようかなと思えるような、人と話もできるし、本も読めるし、冷暖房完備でしかも無料なので、そういう場所になるといいと思う。

(事務局) 図書館にお越しになる利用者は、いろんなニーズを持っていると思うので、そういう方もいらっしゃるし、調べものをしにきたりだとか、読書したりだとか、本当にいろんなニーズがあると思うので、そういったニーズを受け止めて、どういう施設を作っていくのか。静かに本を読む場所もあれば、ディスカッションする場もあったりだとか、ゆったりくつろげる場所があったりだとか、いろいろなニーズに応えたものを作っていくということになると思う。

(委員) 令和6年度に着手というのは、市役所の中で計画を立てるということか。

(事務局) まずは市役所の中でどういうふうにするものか、例えば工程もそうですし、スケジュール的なこともそうですし、建設の場所もそうですし、まずは内部でどうしていくのか検討していくことになる。ただその中で構想を作る時には、いろいろ意見をいただくが、

まずは内部でどういう方向性でもっていか、よくよく検討していかないといけないと思う。

(委員) 情報ライブラリーが出来たときも真田図書館が出来たときも、市民団体やボランティアなど、市民が集まって勉強会を開いたりとか話を聞いたりとかした。そういう動きはまだできていないのか。

(事務局) そういった動きは、具体的に今のところ出てきていないが、地域協議会では、4月に塩尻のエンパークを視察に行きたいというところがあり、そういう中で、これからの上田市の図書館をどんなふうにしたいと考えていただいている協議会はある。

(委員) 本当にあつと言う間に令和12年が来てしまうと以前、会長も言っていたが、早く検討を始めてもらいたい。

(委員) 地域の教育文化学習、ついでにデジタル、そういうものを提供できるような場所にしてほしい。だから一緒に図書館の職員も学んでいけるような環境作り、それだけの部屋も必要だし、そういう図書館になって欲しいと思う。図書館だから学習にも力を入れてほしい。

(委員) 図書館の職員は、いろいろ知っているしまた本当に親切にどこまでも探してくれるし、ありがたいと思う。丸子図書館は施設も新しいので、そのときに私達の前のの方が、図書館建設委員をやっていろんな意見を言ってきた。それが今、丸子図書館が本当に使いやすくはととても満足している。強いて言えば、音訳ボランティアで部屋を借りているが、人数が多くちょっと狭いと思っている。これからますますボランティア増えると思うので、もう一部屋あればいいと思う。

(委員) 私は真田図書館が一番近いのでよく利用してるが、エコールで繋がっているのでネットで予約して本が回ってくるネットワークができていますので大変ありがたい。上田図書館は駐車場が狭いので行きづらかったり、そこに行かなくても本が借りられるというネットワークがあるため便利だ。そう思うと本当に必要なのは川西、川向こうの皆さんだと思う。身近なところに図書館がない方達の方がこういう図書館を作ってほしいとか複合施設にしろ、市役所が隣にあった方がいいとか学校がそばにあると活用するのかなとか。真田図書館は自治センターのすぐ隣ですし、真田中学校もありますし、社会福祉協議会があるのでいろいろなイベントをするのにも活用はできる。ただ上田図書館は前から要望が多く、新しくして欲しいということでありましたし、あまり遠くになってしまうと残念だなと思う方もいるし、今の場所でやっぱりいいっていう方も当然いるでしょうし、これは建設まですごく大変だっていう感想です。やっぱり良い図書館ができたねっていうようになってほしい。

(委員) 私は長く委員をやらせていただいたが、最初の頃はコロナがなかったから、各地の図書館を見学する機会があり、いくつか印象に残った図書館がある。東京方面の最新の図書館は、市でやっていない図書館があり、どんな図書館か見せてもらったが、まず1階が喫茶店だというのは度肝を抜かれ、一般の業者が入ってやっているの、市でやっているとかではないが、そういうところに大勢の人が集まる要素を全部入れてある。だから図書館でくつろげる場所があったり、いろんな分野の非常にたくさんの図書を入れて何十万冊も提供したりしているような図書館もあった。神奈川県大和市の図書館は全く違った図書館の姿があった。ただそれは、市でやっている図書館ではないので、ちょっとすぐにといいことではない。図書館の施設の中に今いろんな団体に関連しているが、そういう人たちが来て使う場所が狭いとか部屋がない。ワンフロアにいくつかの部屋を作った図書館を見たが、10部屋ぐらいの大小の部屋があり、自由に使えると、そうすると騒音の問題がでてくるが、最近の構造で音を遮り、中には楽器を演奏しているグループもいたが、全然音が聞こえてこない。そうすると図書館は、文化的ないろんなことができる。そういう、施設を作ってほしい。そうするといろんな団体が図書館を使いながら利用していける。そしてまた文化がそこで集中していろんな人が交流できる場所になる。そうすると新しい上田の文化というのは図書館から発信できる。だから図書館は1階か2階く

らいでいいということではなくて4階か5階あった方がいいと思う。大きいビルにして、いろんなものが入っている。そうするともうちょっと違った文化で新しい上田の文化を発信するところに持って行ってほしい。ただ本の貸し出しをすればいいという狭いところではなく、それはほんの一分野で、新しい文化を研究してほしい。情報ライブラリーもそういう点では非常に新しい企画で、雑誌が非常にたくさんあるわけです。今後それを宣伝すると思う。新しい現代の文化っていうのを発信している。ですが、そういう観点で人が集まってこないのが、文化の集積場みたいなものを考えていく必要がある。県内でもいろんな特徴がある図書館があるので、私が見せていただいた中で、塩尻図書館は、新しい塩尻市民を図書館が作るというふうには言わないが、外部の人が行ってみると、塩尻市民は図書館を持っている、図書館が文化面を全部率いていくんだっていうくらいを発信するものがある。玄関を入ったところに子育て支援センターがあって、本に接しながら将来の市民はこう作るんだっていうようなところを見せるというところに非常にインパクトがあった気がする。いろんなところがそれぞれ工夫しているので、やっぱりいろんなところをまず見て、いいところを学んで、そして上田図書館が今度造れば一番最先端ですから、いろんなものを真似するのではなくて、上田をどう発信するかっていうことをぜひやって欲しい。コロナでこの3年ぐらい、全くそういうところを見られなくなってしまったので、ぜひいろんなところを見学して、それぞれの市の願いを発信するという観点から見てどうなのかという観点でずっと見ることによって、上田図書館のイメージをみんなで作ってほしいと思う。上田図書館は、全国的に上田の文化を発信してきた場所です。だからそういう火を絶やさないでちょっと他の地域よりも遅れてしまったが、開いてみたらすごい図書館だな、すごいことをやっているなということが、みんなが分かる位なものをぜひ作ってほしいと思う。金がかかると思うが、文化を作るには金がかかる。いろんな図書館で話を聞いたが、出版社や作家を呼んで市民と交流させているところがあった。これはちょっと次の段階になる。そういう人たちが来て、交流するような場所を作れば、そういう本を作る思い、生の声を聞くことができれば、全然違うと思う。そういう場所を是非作ってほしい。いいものを吸収して新しい企画を作っていけたら、ワクワクするような、皆が集まってくる場所を是非作ってほしい。

(事務局) いろいろな図書館を見るのはもちろんだし、上田の文化を図書館が発信するんだという想いも本当に話を聞いて、すごいことだと感じている。

4 退任委員及び異動職員からあいさつ

5 閉 会